

「職業生活」

1 ねらい

働くことについて自己理解を深め、現在及び将来において、自分の力を発揮して主体的に働こうとする意欲と働く力を高める。

2 育てたい自立につながる力

核となる力…主体性、豊かな心、健康な体、人とのかかわり
 働くことに必要な力…時間、就労意欲、集中力、責任感、体力、指示理解・正確性、変化対応、効率、報告・連絡・相談、挨拶・返事、情緒の安定、協調性

3 グループ編成について

卒業後の進路や、働くことにかかわるニーズ、個々の課題や興味・関心に応じて三つの課でグループを編成し、各課のねらいを設定して学習に取り組む。課の所属は、生徒や保護者のニーズに加え、「自立につながる力の内容表（働く力）」を中心としたアセスメントと、体験期間中の行動観察を基に検討・決定する。課で取り上げる活動内容は、近年の障害者雇用状況や、指導の重点として選定した力の獲得に向けたものを設定する。各グループのねらい、目指す卒業後の姿、主な学習活動は以下の表の通り。

グループ名	ねらい	目指す卒業後の姿	学習活動案
1 課	働く意義について理解し、目的達成のために仲間と協力したり、外部の方と協働したりする良さを感じながら、校内外での作業や活動に仲間と共に主体的に取り組むことができる。	企業で働き、生活への意を高めながら自立的に生活を送る姿	「事務」「清掃」 「小売」「接客」 「介護」
2 課	働くことについてのイメージをもち、目的達成のために、仲間とかかわりながら自分の仕事の役割を果たすことの良さを感じながら、校内外での作業や活動に仲間と共に主体的に取り組むことができる。	福祉サービス事業所等で働いたり、将来的には企業で働いたりし、自分のしたいことを選択・決定しながら、自立的に生活を送る姿	「食品加工」 「接客」 「クリーニング」 「事務補助」
3 課	校内外での作業や活動に見通しをもち、仲間と共に心理的・身体的な安定を保ちながら意欲的に取り組むことができる。	福祉サービス事業所等で働いたり、余暇的活動に取り組んだりし、好きな物や活動を主体的に選択・決定しながら生活を送る姿	「リサイクル」 「園芸」 「製品製作」

4 働くことに必要な力と年間配列について

- 各課において、生徒の実態を踏まえ、働くことに必要な力の内容表から重点的に取り組む指導内容を選定し、系統的に身に付けることができるように年間計画に位置付ける。
- 年間計画に位置付けた指導内容を身に付けることができる活動を検討し、単元を構想する。
- 年間を通して、「働くことへの価値を感じ、知識技能を身に付けていく活動（課の取り組み）」を設定し、総合的な学習の時間の「課の取り組みで高めてきた価値と身に付けてきた力を発揮する活動（模擬事業所の取組）」との関連を図りながら、単元を配列していく。

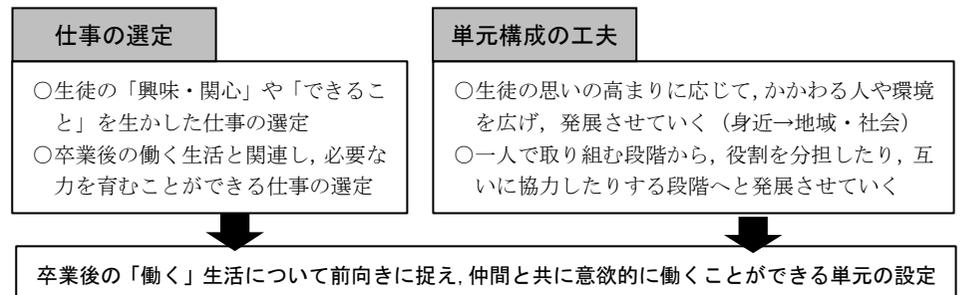
1 学期				2 学期				3 学期		
4 月	5 月	6 月	7 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
体験期間	課	模擬事業所		課	模擬事業所	課		課		

5 単元の設定と展開について

単元の設定に当たっては、生徒が卒業後の働く生活について前向きに捉え、仲間と共に意欲的に働くことができるように、「仕事の選定」と「単元構成の工夫」の二つの視点から学習活動を検討する。

「仕事の選定」では、生徒にとって「興味・関心があるかどうか」「できることを生かせるかどうか」「卒業後の働く生活と関連があるかどうか」「卒業後の働く生活に必要な力を育むことができるかどうか」などを職員間で検討し、生徒が取り組みたいと思える仕事を選定して学習活動に取り入れる。

「単元構成の工夫」では、生活年齢に応じた人や環境等の生活の広がりをも十分に考慮し、生徒の思いの高まりに応じて、学校の身近な生活場面から、地域・社会の生活場面へと対象となる人や環境等を広げていけるように、単元を構成する。その中で、仲間と共に仕事に取り組む良さを感じることができるよう、仕事のやり方を理解し見通しをもって一人で取り組む段階から、役割を分担したり、互いに協力したりする段階へと学習活動を発展させていく。



仕事の選定

- 生徒の「興味・関心」や「できること」を生かした仕事の選定
- 卒業後の働く生活と関連し、必要な力を育むことができる仕事の選定

単元構成の工夫

- 生徒の思いの高まりに応じて、かかわる人や環境を広げ、発展させていく（身近→地域・社会）
- 一人で取り組む段階から、役割を分担したり、互いに協力したりする段階へと発展させていく

卒業後の「働く」生活について前向きに捉え、仲間と共に意欲的に働くことができる単元の設定

6 指導の目標設定と評価

重点的に育てたい内容を踏まえ、「知識・技能」,「思考力・判断力・表現力等」,「主体的に学習に取り組む態度」を目標の設定や評価の観点とする。

(1) 長期目標の設定

長期目標は、個別の教育支援計画の「現在の生活・将来の生活に関する願い」や「現在及び将来の目指す姿」及び、これまでの「目指す姿の実現状況」を踏まえる。そして、学習前に実施したアセスメントを参考に三つの観点（【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学習に取り組む態度】）から設定する。

(2) 短期目標の設定

短期目標は、長期目標を受け、生徒の実態と単元・題材のねらい及び学習題材の特性などを考慮して、三つの観点(【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学習に取り組む態度】)を基に具体化したものを設定する。

(3) 評価

短期目標の評価に当たっては、実態に応じて評価規準を設定し、評価票などを作成・活用しながら数値的な結果や文章によるエピソードなどを記録していく。また、それらを支援の改善に生かしていく。単元終了時には、評価表などの記録を基に、評価規準に照らして達成状況や進歩の状況を確認し、その結果を総合的に評価する。なお、長期目標の評価は、年度末に、全ての短期目標の評価結果を基に長期目標から見た進歩の状況などを確認し、特に進歩の状況が顕著に見られた単元での姿を抽出して、個別の指導計画に分かりやすく記載する。

7 備考

3か年を見越した長期的指導・支援の展望に立ち、各学齢段階（高等部1年，2年，3年）における進路指導の状況や経験などを考慮し、各学年における学習に取り組む構えを段階的にとらえて指導・支援を行う。